

(公社) 大分県建築士会 日田支部会報

発行：公益社団法人 大分県建築士会 日田支部
企画編集：広報部
文責：広報部長 秋 和夫

第19号 (令和02年12月30日発行)

■ 通常総会の報告 ■■■

令和2年度日田支部総会の報告

(公社)大分県建築士会日田支部広報部長 秋 和夫

新型コロナウイルスが世界的に大流行し、4月7日に発令された日本政府の「緊急事態宣言」による集団感染対策の為、日田支部通常総会は書面議決で行われました。

議事

第1号議案

令和元年度事業報告及び収支決算の件

第2号議案

令和2年度事業計画及び事業計画の件

第3号議案

日田支部規約改定の件

- (1) 第5条 理事定数を14名から15名以内と変更。
理由 「現在、支部活動の多くの部分を担っている青年部の部長が理事ではないため。」
- (2) 第15条3項に以下を追加
理事が役員会の決議の目的である事項について提案をした場合において、当該提案につき議決に加わることができる理事の全員が書面又は電磁的記録により同意の意思表示をしたときは、当該提案を可決する旨の役員会の決議があったものとみなす。ただし、監事が異議を述べた場合は、この限りではない。
理由 「今回のような感染症等により、役員が集まるのが困難な場合を想定して規定しておく必要があるため。」(注：(公社)大分県建築士会の定款第29条3を参考にしている。)

第4号議案

役員改選の件 その他

支部規約第6条より、「支部長、副支部長、理事及び監事は、支部総会において正会員の中から専任する。」ことになっている。

支部長	1名
副支部長	3名
理事	15名以内
監事	2名

議案書の追加説明

第1号議案 令和元年度事業報告及び収支決算

① 事業報告

- ・事業報告・部会報告に記載の通り活動を実施。(各部会の皆様のご協力で無事に終わりました。ありがとうございました。)
- ・「建築セミナーinひた」を開催。(皆様のご協力で無事に終わりました。ありがとうございました。)
- ・第24回住宅セミナーは次年度に延期。

② 収支決算

- ・「第24回住宅セミナー」に対する「顔の見える日田材の家造り等協議会」からの助成金は、令和2年度に実施するという事で返金していない。
- ・中止した住宅セミナーに関する「建築士会本部からの活動助成金」と「日田市からの補助金」は実費(チラシ印刷費等)のみで精算、支給された。

第2号議案 令和2年度事業計画及び収支予算

① 事業計画(案)

- ・事業計画・各部会計画を例年通り活動を計画。
- ・延期した「第24回住宅セミナー」を実施。
- ・「第25回住宅セミナー」を「日田の家部会」提案の体験型セミナーとして開催する。(「調査研究部会」が協力。)
- ・7月1日「建築士の日」(住宅相談・耐震相談)については、新型コロナウイルス 感染の収束状況を見て開催日を決める。(日田市建築指導係とも協議する。)

③ 収支予算(案)

- ・会員減により会費収入が減となる。(令和2年5月1日現在で88名)
- ・調査研究費は「住宅セミナー」2回分を計上している。

第3号議案 日田支部規約改定

① 第5条について

現在支部活動の多くの部分を担っている青年部の青年部長が理事とされていないので、理事枠を14名から16名以内と変更したい。

② 第15条について

今回のような新型コロナウイルス感染等が、将来的にも発生するとも限らないと思われ、役員が集まるのが困難な場合を想定して、支部規約の中に手続きを規定しておきたい。

第4号議案 役員改選

副支部長の交代

(大友秋太氏が退任、吉田正浩氏を新任)

理事の交代(吉田正浩氏と伊藤照幸氏が退任、大友秋太氏と櫻木弘三郎氏を新任)

監事の交代(後藤克美氏が退任、梶原和則氏新任)

第5号議案 その他

(1) 令和2年度通常総会の実施方法

(2) 会員について

① 会員の入退会(令和2年4月30日まで)

- ・入会者 梅木健太氏、宮崎陽治氏
- ・退会者 宇野隆之氏、森下精一氏、野村敏則氏、瀬口美智雄氏、戸田重利氏

■ 新役員の紹介 ■■■

副支部長就任の挨拶

令和2年8月27日

(公社)大分県建築士会日田支部

吉田 正浩



時下益々ご清栄のこととお慶び申し上げます。この度、副支部長となりました吉田正浩です。59歳なのでいつまで会社が雇ってくれるのか不透明ですが、退職後は農業(実家の事)をして野村支部長を支える気持ちですので、宜しくお願い致します。

さて、私の副支部長としての役割ですが、やはり諸先輩の活動を継続し、次の世代に引き継ぐ事が大事と考えております。益々活発な活動となりますよう、きめ細かい配慮に心掛け、人が喜ぶ活動を目指します。

次に空き家対策に力を入れたいと考えます。日田市の空き家は1,162戸(H28)です。倒壊寸前の物件も有りますが、ほとんど活用が見込まれる空き家となっています。皆様のご意見を聞きながら、日田市と協力し合い新しい空き家対策を模索していきたいと考えています。地方にいても情報発信出来る時代となった事を最大限に生かしたいと考えます。

また、文化財の保護にも一石を投じたいと思います。今年7月の豪雨で高井町の筏場の眼鏡橋(大分県有形文化財)が倒壊した事は記憶に新しい事です。7年前(平成24年)の九州北部豪雨災害で石橋の上部が流され、下部のアーチ部分のみが残されていましたが、今回の豪雨で全壊してしまいました。7年前に県に問合せしましたが、「どうしたものか、思案している。」との答えで、解決策は見出せなかった様です。地域の大切な文化財を後世に残す事も大事と考えます。と、夢みた

いな事を書きましたが、夢を見られないよりマシだと思い、一生懸命務めさせていただきます。皆様の益々のご支援、ご協力を宜しくお願い致します。

最後になりましたが、皆様の今後益々のご活躍をお祈り申し上げます。私のご挨拶と致します。ご自愛下さい。

活動の報告 ■■■

天ヶ瀬交流会「もくもく広場」の活動報告

(公社)大分県建築士会日田支部

広報部長 秋 和夫

令和2年11月28日

11月28日午後1時より、天ヶ瀬復興応援企画第二弾として、旧あまがせ保育園で天ヶ瀬交流会があり、建築士会日田支部は「もくもく広場」のブースで棚作りをしました。今回は士会員9名の参加で、新型コロナウイルスの感染拡大対策として、入場時の体温測定とマスクの着用を徹底し、体温測定をしたかどうかを確認できるようにピンクリボンを着けて作業準備にかかりました。



昼前で、腹が減っては作業ができぬ・・・のため、先ず、棚作りにも備えてみんなで腹ごしらえです。この時は、マスクを外して暫しの沈黙タイムですが・・・大丈夫なのか?? _(:_):_



取り急ぎ、標準サイズの棚サンプルを作成し、幅や高さのリクエストを受ける形でスタート。決まった規格寸法の木材を幾つか用意したうえで上手く組み合わせ、仮住まいでも使えるようオーダーを受けて製作をしました。



事前に3組の申込みがあったのですが、意外にも需要が多く13組の下足入れや棚をつくりました。

若い親子連れも来て、お父さんとお母さんがお子さんの応援を受けながら、ビス打ちしている姿は微笑ましいものでした。



棚作りの状況

反省点としては、割と大きな棚を頼まれて組み立てた後にとても重くなって車に積み込むのが大変でした。



同時に、建築相談も受けられるよう席を設けておきました。相談にみえた方は、2回も大きな被災をしてとても怖い思いをたそうので、水害に逢わないように家を嵩上したいとの事でした。



■ 役員会の報告 ■■■

令和2年度 役員会の報告 (公社)大分県建築士会日田支部

広報部長 秋 和夫
令和2年12月04日

12月4日午後6時30分より、日田駅前の寶屋で役員会を開催しました。今年度は、新型コロナウイルスの感染拡大対策で、各部の殆どの事業が開催出来ておらず、青年部に於ける天ヶ瀬相談ボランティアと「天ヶ瀬交流会」は何とかこなしました。

今後の事業として、支部ボウリング大会と第23回住宅セミナーは、今後の感染状況を静観しながら、開催の可否判断を行うようにしておりましたが、現状の感染拡大の実情から中止することを役員会で決定しました。



(役員会の様子)

その他の議題は、災害発生時の建築士会の対応として、大分県との災害時協力協定の充実と連絡網の整備、日田職人会(高瀬泰孝会長)との勉強会、令和3年8月21日(土)に開催される「建築士の集い大分大会」について、日田支部は広報担当となっており、動画配信等を通じて活動の配信をすべくその方法について協議を行いました。

また、第63回全国大会広島大会(令和2年11月4日)と「おおいた建築セミナーin 姫島」は延期されました。

その後、役員会数名で今後の活動活性化を図るため懇親会を行い、今後の活動方法や改善策について議題を深めました。



(懇親会の様子)



<会報後記>

新型コロナウイルスの感染は終息どころか、拡大の一途を辿りこの1年が経過してしまいました。国政では在宅ワークや県境移動の自粛等の対策を取りながらも、決定的な打開策は見えない状態です。経済に与えた影響はとて大きく、ある意味、生活形態と流通システムが大きく変わった年ではなかったでしょうか？

建築士会日田支部の活動も、感染拡大防止対策のため殆どの活動を中止せざるを得ませんでした。7月に発生した水害は、天ヶ瀬と中津江地区に大きな爪痕を残しました。不安の多い年明けになりそうですが、少しずつでも自分たちのできる事を丁寧かつ確実に実施して、地域の復興に向けて頑張っていきたいと思えます。

(広報部長 秋 和夫)